



Title	兵庫県ガンセンターと医師会の連けいについて
Author(s)	藤原, 博子
Citation	大阪公衆衛生. 1964, 13, p. 26-26
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/84631
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

兵庫県ガンセンターと 医師会の連携について

財団法人兵庫県ガンセンター

周知の如く本邦の癌死亡率の上昇は各地に対癌活動の活発化を促している。本県では県、市町、財界の協力下に、昨年9月、財団法人として、ガンセンターが開所した。

勿論、診療、予防面で兵庫県医師会との関係は密接であるが、殊に特徴的なものが2つ挙げられよう。その一つは癌登録に関する相互協力であり他の一つは流通センター経由による患者の処理である。

癌患者の登録は、県下患者の公衆衛生的考察を容易にし、対癌施策の基礎資料となるものである。未だ発足して1ヶ月に満たず、見るべき業績はないが、将来の成果を期待出来るものである。

ガンセンター附属病院には患者の処理能力に限度があるので、早期診断、早期治療という癌診療の根本原則にのっとり、真にセンターの設備、機能を必要とする者にその利用を限るべく、所謂、兵庫方式という診療形態が採用されている、即ち患者は、先ず一般医療機関に受診し、そこでスクリーニングされたものが、医師会内に設けられた流通センターを通じて紹介される、ガンセンターで適確な検査を受け、必要に応じて治療が行われるが、当所で行い得る検査並びに治療が終了した後は患者は再び流通センターを通じて元の主治医に送り帰される。尚、患者数が当センターの能力を越える場合には、県内に設けられた数ヶ所のサブセンターで診療を受けるようになっている。この方式は既に5ヶ月前より運営されており、当初は不慣れのせいもあって、患者の流通に齟齬を来すこともあったが、最近では軌道に乗り、かなりの患者が流通センターを通じて送られている。関係者相互の十分な理解の下にこの方式を発展せれば、その意義は極めて大きいと考える。

(調査部調査室 藤原博子)



とう・さい・なん・ぼく